

単元案の概要

単元名:韓中独連携プロジェクト 平昌オリンピックで目標言語圏の選手を応援しよう!					
科目名	韓国語	作成日	2017年9月1日	作成者	阪堂千津子
学年/年次	大学1・2年生	クラス人数	26名	使用教材	『ちょこっとチャレンジ!韓国語』ほか
話題分野	スポーツ	言語レベル	レベル1~2	必要時間数	授業内6時間+授業外の活動

単元目標

2018年2月に開催される平昌冬季オリンピック・パラリンピックを題材に、韓国について理解を深め、日韓の共通点と相違点について考察する。

*題材としては次のようなものを取りあげる。

- ①開催地の風土や特徴
- ②人気がある・ない種目の日韓比較とその理由
- ③注目される種目と選手
- ④オリンピックに対する韓国人の意識や報道の仕方
- ⑤韓国語を使った応援のしかた

・SNSを使って韓国語で現地の人にインタビューやアンケートをしたり、ネットや文献で資料を集めて共同でスライドを作成する。韓国語を使ってクラス内で発表し、意見を募る。

・さらに、多言語学習クラスにも発信し、また、多言語学習クラスからの成果物を鑑賞することにより、オリンピックと言う共通のテーマを軸に新たな視点を提供しあう。

めやす指標

[話題分野「地域社会と世界」を参考に、オリジナル指標を作成]

- ・目標言語圏の国名や主な都市名を言ったり書いたりできる。開催地の特徴や特産物について、簡単に説明できる。
- ・目標言語圏の人気のある選手の名前や競技の種類などを言ったり書いたりできる。
- ・目標言語圏でのオリンピックについての考えを簡単な言葉でやりとりすることができる。
- ・目標言語圏での応援の言葉を紹介し、実際に応援することができる。

学習活動の流れ

語彙・表現習得活動	学習シナリオ
韓国国内で人気があるスポーツ種目や人気があるアスリートを日本語学校に通う社会人に紹介してもらった。その後、人気のある種目や選手の専門用語(スキーの用語など)を調査した。オリンピックの歴史や開催地の風土や特徴については、新聞記事やインターネットのサイト等を利用し、内容をまとめた。各テーマについては、日本語に翻訳したうえで、多言語学習者にもわかりやすいように両語を併記したり、スライドは日本語で表記し韓国語で口頭発表するなどの方法で行った。	<p><場面状況></p> <p>平昌オリンピックは、韓国で行われるめったにない世界的なスポーツイベントである。そこで、学内外の多言語を学ぶ学生に、オリンピックを通して韓国および韓国語に関する情報を提供することで、韓国や韓国語に対して関心を高め、より深く理解してもらえるよい契機になると考えた。グループを作ってテーマを分担し、ソウルに住む先輩が務めている日本語学校に通う一般の韓国人に、オリンピックに対して抱いているイメージや意見を聞いたりアンケートをとったりして、与えられたテーマについて調べ、それらをまとめて、学内の成果発表会でプレゼンテーションをする。その後、修正を加え、学外の他言語学習者向けに発表した動画で配信する。また、同じテーマで他の国を扱った発表を鑑賞し、オリンピックを多様な視点を持って観戦できるように試みる。</p> <p><活動の流れ></p> <ol style="list-style-type: none"> ①プロジェクトのねらいと発表対象者(学内の主に韓国朝鮮語履修者と、他大学の他言語学習者の学生)を説明し、プロジェクト参加への同意を得る。韓国映画「国家代表」を鑑賞して、平昌オリンピック開催までの歴史的背景、韓国でのオリンピック種目や選手の状況などを概略的に理解し、共通点や相違点を予想する。 ②ソウルの日本語学校の学生とペアリングを実施。お互いにSNSなどで自己紹介のやりとりをする。 ③オリンピックについて関心のあるテーマ、調べてみたいテーマをクラスで討議し、グループで分担する。分担したテーマについて、ペアになった韓国人にどのような質問をしたらよいか、また、成果物のまとめ方についてグループ内で話し合う。 ④ペアになった韓国人と直接個別に連絡をとり、インタビューやアンケートを通じて意見や情報をまとめ、結果について考察する。日韓の比較が必要なテーマについては、クラス内でもアンケートを実施する。 ⑤スライド作成。 ⑥韓国語を学ぶ他クラスや他学年の学生を対象に、学内で成果発表。その後、他言語学習者へ向けた動画を撮影し、公開。コメントをもらう。 ⑦他大学のスライド(中国・ドイツからみたオリンピック)も鑑賞し、感想を記入。SNSを通じて、感想を交換し合う。

学習活動の流れ

形成的評価	総括的評価
毎回の進捗状況を、各回ごとに書記を決めてグループごとに記録し、提出する。毎回、授業時間内に行った作業と、次回の作業予定、また、次回の授業までに各自がやってくる個別作業の確認事項を記入する。	成果物(スライド・プレゼンテーション)について①鑑賞した他学部・他学年の学生。②クラスの学生同士③教師が評価を行った(成績に全体の40%を含める)。特にクラス内での相互評価では、言語領域(構成・表現/言語を使って他の人と繋がる)、文化領域(目標言語圏の風土や競技、選手に対する調査・発見・分析)、グローバル社会領域(チームワーク・協働/ICT活用)での評価を行い、自由記述で、プロジェクトを通じての気づきを記入。

3×3+3 分析表（韓国語）

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> ・(冬季) オリンピックに関わる用語、種目名や応援の言葉などの韓国語を理解し、実施に応援することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と韓国の歴史認識の差から、オリンピックに対する考え方の違いに気づく。 ・日本と韓国で、オリンピック選手(候補者)や種目などの置かれている立場の違い(国家代表への待遇)に気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・オリンピックはただスポーツの祭典であるというだけではなく、様々な政治的、社会的、国際的問題が複合的に存在していることがわかる。
できる	<ul style="list-style-type: none"> ・(冬季) オリンピックに関する態度や考えについて、韓国語母語話者に尋ねるためのアンケートを韓国語で作成し、その回答内容を理解することができる。 ・(冬季) オリンピックに関する韓国語の文献やウェブサイトを見て、内容を理解し、成果物にまとめることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(冬季) オリンピックに対する態度や考え方などの日韓での共通性や相違性などを分析することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(冬季) オリンピックに関わる問題について、グループで調査を進め、調査結果に基づいて、自分たちの考えを表明することができる(高度思考)。 ・SNS やEメール等を活用して、韓国語母語話者とやりとりをしたり、ネットなどから情報収集を行うことができる(ICT活用)。 ・グループで分担したり協力したりしながら成果物(スライド)をまとめ、発表することができる(協働)。
つながる	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語母語話者と SNS やEメールなどを用いて、オリンピックに関わる事柄について韓国語で情報交換をしたり、アンケートをとったりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・韓国語母語話者に SNS など、(冬季) オリンピックに関わる事柄について、日本と韓国の文化や習慣・考え方の違いなどを考慮して質問し、情報を得ることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS やEメール等を活用して韓国語で収集した情報を日韓対訳の成果物にまとめ、韓国語や他言語クラスなどに向けて発信、聞き手が平昌オリンピックに関心を持つように働きかけることができる。 ・他言語クラスの成果物を鑑賞したり、自分たちの発表について多言語クラスからフィードバックをもらうことで、より多角的な視点からオリンピックを考えることができる。
三連携	<p>【学習者】グループ内での話し合いや協働</p> <p>【教室外】アンケートに協力してくれた韓国語母語話者や日本語母語話者、他大学他言語クラスの学生、インターネット</p> <p>【他教科】他の韓国語科目、校内の他学年、地域社会など</p>		

単元案の概要

単元名: 韓中独連携プロジェクト_平昌オリンピックで目標言語圏の選手を応援しよう!					
科目名	中国語	作成日	2017年9月30日	作成者	西 香織
学年/年次	大学1年生	クラス人数	20人	使用教材	なし
話題分野	地域社会と世界	言語レベル	2	必要時間数	授業内約6時間+授業外(調査、成果物の作成)
単元目標					
2018年2月に開催される平昌冬季オリンピック・パラリンピックを通じて、中国語圏の国・地域や日本のオリンピックの歴史、中国語圏の冬季オリンピック選手、中国語圏の人々のオリンピックなどに対する意識などを知り、視野を広げることを目標とする。学習者はグループごとにテーマを決めて、中国や日本に在住する中国人(一部、日本人)を対象に意識調査などを実施し、日中対訳の成果物(スライド)を協働して作成し、情報を発信して、中国語圏の選手や、人々の考え方について理解を深めてもらう。					
コミュニケーション能力指標					
【人とのつきあい】 2-h. 定型表現を使った、簡単な手紙やメールを、書いたり読んだりできる。					
【趣味と遊び】 2-f. 好きなものや趣味が何か、口頭でまたは書いてやりとりできる。					
【行事】 1-a. 行事(年中行事、祝祭日、記念日、通過儀礼など)の名称・月日を、言ったり尋ねたりできる。 1-b. 行事(年中行事、祝祭日、記念日、通過儀礼など)の名称を、見て理解したり、書いたりできる。 1-d. 祝祭日や記念日・通過儀礼の決まり文句やお祝いのことばを、見たり聞いたりして理解できる。					
【地域社会と世界】 1-d. 相手の国や日本を代表する人物(国家元首や歴史上の人物、いまの有名人など)の名前を、言ったり書いたりできる。 2-d. 日本や相手の国の有名人や建築物について名前や特徴(何をした人か、いつ建てられたかなど)を、口頭または文章で紹介できる。					
【オリジナル指標】 ・ある事柄に対する相手の国の人々の考え方(好き嫌い、関心の有無など)について尋ねることができる。					
学習活動の流れ					
語彙・表現習得活動			学習シナリオ		
既習項目を復習するにとどめ、未習の項目については学内の学習支援システムを利用して情報提供した。中国人に対してSNSやEメールなどで調査を実施する前に必要な語彙をその都度、補充(グループによって必要な語彙は異なるため、個別対応)。			<p><場面状況> オリンピックは世界各国から選手が参加するスポーツの祭典であり、2020年には東京で夏季オリンピックが開催される予定であるが、他国の選手に比べ、日本人選手ばかりが注目される傾向にある。他の国の選手のことについてはなかなか情報が得られない。中国語クラスでは、中国語圏の選手やオリンピック事情(オリンピックに対する考え方や様々な意見)について調べ、オリンピックを今までとは異なる角度から楽しもうと考えた。</p> <p><活動の流れ> ①プロジェクトの説明をし、グループ分けを行って、事前調査(平昌冬季オリンピック、パラリンピックの基本情報、オリンピックの簡単な歴史、冬季オリンピックの競技種目名、中国語のオリンピック用語や試合で使用される応援やプーイングの言葉など)を実施。 ②成果発表の評価基準表、進行予定表の配付、WEB等公開承諾書の記入。 ③グループを再編成し本テーマを決定し、本調査(中国で有名な冬季オリンピック選手、平昌オリンピックに対する関心度、冬季オリンピック競技種目に対する関心度、中国がパラリンピックに強い理由と中国の障害者の現状など)を開始。中国語文献を収集したり、中国語母語話者への質問項目を考え、SNSやEメールを通じて配布(必要に応じ、日本語母語話者にも調査を実施)。回収後、分析。 ⑤日中対訳形式の成果物(スライド)を作成。 ⑥クラス(授業)内でグループごとに主に日本語でプロジェクトの報告、評価・感想。 ⑦成果物(スライド)の修正、提出。 ⑧ウェブ上(グループウェア)に成果物をアップし、他言語クラスと共有、評価しあい、交流を図る。 ⑨プロジェクトに関する意識調査を実施</p>		
評価活動					
形成的評価			総括的評価		
			<p>成果物(スライド)及び報告会での発表を教員と学生で評価 自己(自己グループ)評価: 1)発表態度(声・表情など)、2)スライドの内容の分かりやすさ、3)スライドの見やすさ、工夫、4)大学生らしいテーマ・内容、5)作業過程でのグループへの貢献、6)チームワークをそれぞれ1~5点の五段階で評価 他者(他グループ)評価: 1)発表態度(声・表情・チームワークなど)、2)スライドの内容の分かりやすさ、3)スライドの見やすさ、工夫、4)大学生らしいテーマ・内容、5)スライドの中国語(教員のみ)をそれぞれ1~5点の五段階で評価 その他、自己評価では、良かった点、反省点、本活動を通しての気づき、他者評価では、良かった点、こうすればもっと良くなると思った点を自由記述</p>		

3×3+3 分析表（中国語）

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<ul style="list-style-type: none"> ・(冬季) オリンピックに関わる用語、種目名や応援、プーイングの言葉などの中国語を理解する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本と中国語文化圏の文化や習慣の違いから、人々のアンケート調査の協力に対する姿勢の違いに気づく。 ・日本と中国語文化圏の文化や習慣の違いから、人々の(冬季) オリンピックに対する考え方の違いに気づく。 ・日本と中国語文化圏(主に中国)で、オリンピック選手(候補者)の置かれている立場(自由度など)の違いに気づく。 ・日本と中国語文化圏(主に中国)で、障がい者が置かれている状況が異なることに気づく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日本に長く暮らしている外国籍の人々(主に中国人)が、オリンピックでは母国を応援するのか、それとも日本またはその他の国を応援するのか、もしくは国籍と応援する国は無関係なのか、などを、調査を通じて理解する。 ・両親の国籍が異なるなど、家族の形が多様化する中で、様々な文化背景を持つ人々がオリンピックでは日本を応援するのか、他国を応援するのか、もしくは自分の文化背景と応援する国は無関係なのか、などを、調査を通じて理解する。 ・オリンピックはただスポーツの祭典であるというだけではなく、様々な政治的、社会的、国際的問題が複合的に存在していることがわかる。
使える	<ul style="list-style-type: none"> ・(冬季) オリンピックに関する態度や考えについて、中国語母語話者に尋ねるための調査表を中国語で作成することができる。 ・(冬季) オリンピックに関する中国語の文献やウェブサイトを見て、内容を理解することができる。 ・中国語アンケートの回答内容を理解することができる。 ・中国語と日本語で成果物(調査結果や分析、考察をしたスライド)を作成することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(冬季) オリンピックに対する態度や考えなどの日中比較を通じて、その共通性や相違性などを分析することができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・(冬季) オリンピックに関わる問題について、グループで調査を進め、中国語母語話者に確認するなどして分析を行い、調査結果に基づいて、問題点及び自分たちの考えを表明することができる(高度思考)。 ・SNS やEメール等を活用して情報収集を行うことができる(ICT活用)。 ・グループで分担したり協力したりしながら成果物(スライド)をまとめ、発表することができる(協働)。
つながる	<ul style="list-style-type: none"> ・中国語母語話者と対面で、もしくはSNS やEメールなどを用いて、オリンピックに関わる事柄について中国語で情報交換をしたり、アンケートをとったりする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートの調査項目を考えるにあたって、中国語母語話者に対面で、(冬季) オリンピックに関わる事柄について、日本と中国の文化や習慣の違いなどを尋ねて情報を得る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SNS やEメール等を活用して中国語で収集した情報を日中対訳の成果物にまとめ、中国語や他の言語クラスなどに向けて発信できる。
三連携	<p>【学習者】グループ内での話し合いや協働</p> <p>【教室外】アンケートに協力してくれた中国語母語話者や日本語母語話者、他大学他言語クラスの学生、インターネット</p> <p>【他教科】他の中国語科目、地域社会など</p>		

単元案の概要

単元名:韓中独連携プロジェクト_平昌オリンピックで目標言語圏の選手を応援しよう!					
科目名	ドイツ語	作成日	2017年9月1日	作成者	池谷尚美
学年/年次	大学1・2年生	クラス人数	4名	使用教材	Schritte international A1/2~A2/1(参考)
話題分野	スポーツ	言語レベル	レベル1~2	必要時間数	授業内6時間+授業外の活動
単元目標					
2018年2月に開催される平昌冬季オリンピック・パラリンピックを題材に、ドイツ語圏でのオリンピックの歴史、オリンピックで人気があるスポーツ種目や選手、オリンピックが抱える諸問題、現地の人たちのオリンピックに対する意識を知り、視野を広げることを目標とする。学習者はドイツ語圏の選手について調査、スライドを協働して作成し、目標言語での応援の言葉や、目標言語圏でのオリンピックに対する意識も含めて他言語学習クラスに伝える。					
コミュニケーション能力指標					
[話題分野「地域社会と世界」を参考に、オリジナル指標を作成]					
<ul style="list-style-type: none"> ・目標言語圏の国名や主な都市名を言ったり書いたりできる。 ・目標言語圏のオリンピック代表選手の名前や経歴を言ったり書いたりできる。 ・目標言語圏でのオリンピックについての考えを簡単な言葉で伝えることができる。 ・目標言語圏での応援の言葉を紹介することができる。 					
学習活動の流れ					
語彙・表現習得活動			学習シナリオ		
ドイツ語圏で人気があるスポーツ種目について調査し、その分野で人気があるアスリートを留学生に紹介してもらった。その後、紹介するアスリートが出場する種目の専門用語(スキーマの用語など)を調査した。オリンピックの歴史や問題点については、新聞記事やインターネットのサイト等を利用し、日本語文献で裏付けを取りつつ、内容をまとめた。			<p><場面状況> オリンピックは世界的なスポーツイベントであるにもかかわらず、日本では日本人選手の活躍が目される傾向にあり、他国の選手のことについて情報を得る機会があまりない。ドイツ語クラスでは、2018年2月に開催される平昌冬季オリンピックを契機に、ドイツ語圏の注目選手、ドイツ語での応援の言葉、ドイツ語圏の人々がオリンピックに対して抱えている問題点や意見を調査し、オリンピックを今までと違う視点を持って観戦しよう、と考えた。</p> <p><活動の流れ> ①プロジェクトのねらいと発表対象者(ドイツ語圏からの留学生と、他大学の他言語学習者の学生)を説明し、プロジェクト参加への同意を得る。オリンピックに対して学習者がどんな立場を取っているか(オリンピックについての知識、賛成・反対等)を話し合った。 ②冬季オリンピックの種目を表すドイツ語を学ぶ。到達目標や評価基準の説明。 ③クラスに留学生を招き、ドイツの有名アスリートや応援の言葉、ドイツの人々が持つオリンピックへの考えを紹介してもらい、その後質疑応答。 ④留学生のプレゼンを基に、調査内容や担当を決定。 ⑤スライド作成。 ⑥再度留学生にクラスに来てもらい、成果発表。その後他言語学習者へスライドを公開し、コメントをもらう。他大学のスライドも視聴し、感想を書き、アンケート記入。</p>		
評価活動					
形成的評価			総括的評価		
			成果物(スライド)について学生が自己評価を行った(成績には含めない)。言語領域(構成・表現/言語を使って他の人と繋がる)、文化領域(目標言語圏の競技や選手に対する調査・発見・分析/オリンピックが抱える様々な課題に関する意見や分析)、グローバル社会領域(チームワーク・協働/ICT活用)での評価を行い、自由記述で、プロジェクトを通じての気づきを記入。		

3×3+3 分析表（ドイツ語）

	言語領域	文化領域	グローバル社会領域
わかる	<p>冬季オリンピックの競技種目を表す単語が分かる。</p> <p>選手の経歴や試合出場結果が分かる。</p> <p>選手やチームを応援する言葉が分かる。</p>	<p>オリンピックに関して、目標言語圏で問題になっていることが分かる。</p> <p>目標言語圏でのオリンピックの歴史的経緯を理解できる。</p>	<p>オリンピックに関して、世界各国で様々な問題が複合的に存在していることが分かる。</p>
できる	<p>選手のパーソナルデータをスライドにまとめることができる。</p> <p>選手の競技結果をスライドにまとめることができる。</p> <p>選手やチームを応援する言葉を言うことができる。</p>	<p>オリンピックに関して、賛成・反対の意見をまとめることができる。</p> <p>オリンピックについて、目標言語圏で主に問題になっていることの裏付けをネットや文献（新聞記事や書籍等）で取ることができる。</p>	<p>オリンピックについて日本人の意識と、目標言語圏での考えを対比させ、自分の意見を持つことができる（高度思考）</p> <p>SNS やインターネットを使い、情報収集をすることができる。（ICT 活用）</p> <p>分担・協力してスライドを完成させることができる（協働）</p>
つながる	<p>留学生に、自国で人気があるスポーツについて尋ね、日本の状況と比べることができる。</p> <p>留学生に、自国で人気があるアスリートについて尋ねることができる。</p>	<p>目標言語圏の人たちがオリンピックについてどんな考えを持っているかを、根拠を持って他の言語学習者に伝えることができる。</p>	<p>スライドの成果物を留学生や、他言語学習者に対して発信することができる。</p>
三連携	<p>【学習者】クラス内での話し合いや協働</p> <p>【教室外】留学生との交流、他言語学習者とのグループウェアでの交流</p> <p>【他教科】地域社会、オリンピックの歴史的背景、スポーツの役割、環境問題等</p>		